



総務文教常任委員会

11月11日～13日

◎笹川信子、◎小林 誠、佐藤和雄、下村喜作、阿部銀次郎、杉井 旬、横山一雄、長橋一弘

済生会病院と連携

◎病児・病後児保育事業について（群馬県前橋市）

前橋市では、市内の認定保育所を利用している全保護者を対象にアンケート調査を行った結果、保育サービスの要望として最も高かったものが病児・病後児保育であったため、実施に向け検討を行う中で済生会前橋病院から実施してもらえらることとなり、平成25年11月に同病院敷地内に病児・病後児保育施設「おひさまの家」を開設しまし



前橋市 病児・病後児保育施設

た。1日の定員は4人で、生後8週間からおおむね9歳までの市内の児童または市内に勤務先を有する保護者の児童を対象に受け入れを行い、事業に取り組んでいました。

小学校区ごとに防災会連絡協議会を設置

◎防災コミュニケーションの育成と推進の取り組みについて（愛知県豊橋市）

豊橋市では、災害時の共助、自助の重要性と必要性を訴えている中、地域により温度差があり、自主防災組織を充分機能させる地域の防災リーダー育成のため、自主防災リーダー養成講座を平成20年度から開催し、自主防災リーダー修了者に対するフォローアップ講座、自主防災活動推進大会の開催、防災士の受験者に受講料の補助を行うなど人材育成と市民の意識改革に取り組むとともに、小学校区ごとに校区防災会連絡協議会を設置し、自治会、消防団、小中学校PTAなど各種団体が参加して、普段から協議を行うなど防災コミュニ

市街地の活性化等に寄与していました。

まとめ

今回の視察で各市の行っている取り組みを学び、ひとつの施策に対する関連事業の多さに驚きました。財政状況や市民性、地勢的環境を考慮し、当局においても参考にできるところは取り入れるべく努力をし、人口減少、高齢化社会を迎えるこれからの三条市の発展に結び付けていきたいと思えました。



富山市 富山市役所

経済建設常任委員会

11月5日～7日

◎山田富義、◎名古屋豊、武石栄二、野崎久雄、酒井 健、坂井良永、高坂登志郎、伊藤得三

対策完了地区では浸水被害をほぼ解消

◎静岡市浸水対策推進プランについて（静岡県静岡市）

静岡市では、平成15年、16年に発生した集中豪雨による大規模浸水被害を受け、浸水対策を計画的かつ重点的に推進するため、平成18年2月に静岡市

ニティーの推進を図っていました。

市民目線による施設の再整備

◎公共施設の再整備および有効活用の取り組みについて（神奈川県藤沢市）

藤沢市では、老朽化施設の計画的な再整備や長期的視点からの改修計画、維持管理計画など市民目線による検証を行うため、平成20年11月に基礎資料としての公共施設マネジメント白書を作成しました。その後、その白書を基に公共施設再整備基本方針を策定し、施設の建て替えの際は機能集約と複合

市民福祉常任委員会

11月5日～7日

◎岡田竜一、◎武藤元美、久住久俊、熊倉 均、森山 昭、河原井拓也、佐藤宗司、野崎正志

市全体で取り組みを

◎ごみの減量について（愛知県安城市）
人口増加の比例以上に、ごみの排出量が増加し続けたことで焼却灰の処理や埋め立て処分場の確保が問題であった。このため、ごみ減量推進市民活動支援プログラムや全面カラー印刷の家庭ごみと資源の分け方・出し方早わかりブックなどを作り、市民に対する地

生涯を楽しく過ごす

◎高齢者の生きがいづくりについて（愛知県一宮市）
GPSを活用した徘徊高齢者家族支

浸水対策推進プランを策定。河川・水道の排水施設増強、雨水貯留浸透施設の設定等のハード、内水ハザードマップ策定等のソフトという両面から総合的な対策を講じることに、視察直前の台風18号上陸時には対策完了地区での浸水被害がほぼ解消されているなどの成果を上げていました。

空き町家の所有者と活用希望者を縁結び

◎歴史的建造物を生かしたまちづくりおよび町家再生ネットワーク事業について（滋賀県近江八幡市）



近江八幡市 町屋が建ち並ぶ旧市街地

近江八幡市は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている旧市街地で増えつつある空き町家の所有者と活用希望者とを結びつけるため、平成21年に官民協働によるおうみはちまん町家再生ネットワークを設立。ネットワークが物件情報を集約し、情報発信、仲介等を行うことにより、これまでに6軒が住居兼店舗として活用されていました。

積極的な販路開拓で植木産地としてのブランドを確立

◎植木産業の振興および川口緑化センター樹里安について（埼玉県川口市）



川口市 川口緑化センター樹里安

植木産地として名高い安行地区を擁する川口市は、花のオリンピックといわれる国際園芸博覧会への出品、都心における展示即売の実施等のさまざまな事業を行っています。道の駅を併設する川口緑化センター樹里安は、植木・鉢物・園芸資材等、約750種、3万点を扱う直売所、情報コーナーなどで構成され、隣接する市営植物取引センターと併せて充実した施設となっています。

まとめ

内水対策については、当市でも喫緊の課題として対策が進められています。静岡市で実施されている校庭での一時貯留や各家庭における貯留浸透施設設置への補助等の手法は参考にできると思いました。

また、高い技術と伝統を守るだけではなく、海外まで視野を広げ、その土地、その時代の消費者が求めるものを提供していこうという川口市の積極的な姿勢は、他の分野においても共通し必要なものだと感じました。